とある科学の超電磁砲？

阪神虎之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の超電磁砲？

【Ｎコード】

Ｎ４２０７Ｘ

【作者名】

阪神虎之介

【あらすじ】

学園都市で過ごす風紀委員が繰り広げるドタバタハチャメチャな物語

THE・プロローグ（前書き）

始まり～始まり～

THE・プロローグ

東京の西部を開拓しイロイロな研究所がそこにぶち込んだ結果、世界有数の科学都市が生まれた。

人はその名を「学園都市」と呼んだ。

チンピラ「なんなんや！この女！ホンマに人間か！」

チンピラはある女と対決していた。

そのにチンピラ達が絡んだがその女が強く、１０人程いた方達がすでに1人になっていた。

チンピラ「男として負けたらあかん、只でさえ男性の地位が下がってるのに俺達がこんな小生意気なガキに負けたらさらにアカン」

この女「どうしたのよ、早くかかってきなさい」

「この女」は頭から電撃見たいなのを繰り出した。

チンピラ「前言撤回、逃げる」

チンピラは逃げ出した。

チンピラ「あ～も～ツいてない！金貰おうと思って絡んだねぇちゃんがあれじゃとてもやってられんわ」

チンピラは路地を走り回るが

チンピラ「へ？」

【ゴッ！】

チンピラ「ギャ！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「『風紀委員』です、暴行未遂の現行犯で拘束しますの」

チンピラ「イダイイイダイイイダイイイダイイイダイイイダイイイダイ！！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「おとなしく観念してくださいな」

チンピラ「するするするするする！！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「さもないと腕をへし折りますわよ？」

チンピラ「話聞いてる！？観念してるがな！？アダダダダ！！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「確保！…さてっと」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子はチンピラに手錠をかけると路地にいる「この女」に声かけた。

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「風紀委員ですのーそちらの方大丈夫ですか？今助けにー」

そう言った瞬間、「この女」は後ろを振り返り、一言。

この女「あ！黒子」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子もとい黒子「……通報にあった路地裏に連れ込まされた女性というのは、お姉様の事でしたの…」

この女もといお姉様「どーしたの？」

THE・プロローグ（後書き）

次からオリ主初登場

THE・オリ主（前書き）

オリ主初登場

THE・オリ主

ここは柵川中学校、ごくごくありふれた学園都市の中学校である。

全校生徒は勿論「学園都市能力検定」をやり、自分の能力と級がわかっている。

まぁそれはどの学園都市の学校もそうだけど

一年生の教室にて

男？「ＺＺＺＺＺＺ」

女？「ＺＺＺＺＺＺ」

二人の男女が気持ちよく寝ていた。

先生「……（怒）」

勿論、先生は黙って二人の事を見つめてる。

男？「オイ、起きろや」

女？「佐天さん起きてください」

女？もとい初春飾利は女？もとい佐天涙子を起こそうと試みる。

佐天「う～ん…」

起きる気配はない。

男？「おい、起きんか！起きろよ…起きないな」

この初春と違い、更々起こす気が無い男、桜井広はぐっすり寝てる男、熊谷雅布（くまがいまさのぶ）を教科書で殴った。

雅布「グハァ！？」

雅布は起きた。

雅布は辺りを見回すと…

雅布「おい桜井起きろ」

桜井「起きとるわ」

先生「おい佐天早く起きろ」

佐天は勢い良く起き上がり…

佐天「え、あ…すみません！」

先生「二人共廊下に立ってろ！」

佐天「はー「ヤダ」い」

先生「熊谷！何がやなんだ！言って見ろ！」

雅布「だって寝てただけですよ！？」

先生「能力に関する重要な授業だ！寝るなんて言語道断！廊下に立っとけ！」

雅布「俺レベル４なんですけど！？」

先生「関係あるのか！？レベル５目指さないのか！？」

雅布「はい！！」

桜井「堂々ということか…」

さすがの先生も

先生「ふざけんな！立ってろ！」

雅布「へい」

先生「ったく」

結果的に雅布は風紀委員じゃ異例の学年指導を受けるハメになった。

桜井「雅布って風紀委員だったんだ…」

初春「あまり認めたくないですけどね…」

・　・　・　・

・・・・・

～風紀委員第１７７支部にて～

そこにはデスクワークをやっている初春と始末書を書いている白井黒子とスナック菓子を頬張り昨日の阪神の結果を眺めている雅布がいた。

雅布「昨日は広島に３ー１か…鳥谷５号２ラン…岩田の完投か…」

黒子「雅布もちゃんと風紀委員としての自覚を持って欲しいのですの、最近雅布の仕事にはやる気が感じられないですの」

雅布「だって風紀委員って学校内だけじゃん」

初春「それはそうでそうけど…学校内以外の事件を取り扱うのは基本的に『警備員』の仕事ですし…」

雅布「白井みたいにさ、学校外でも暴れる奴が普通だと思うけど…」

個法「デスクワークも普通の風紀委員の仕事も大事な事よ」

雅布「いきなりなんですか！？」

この「アンタ誰だよ！？」見たいな感じで話の中に乱入してきた方は個法先輩

え？「個法先輩」じゃなくて本名で書けと？

じゃ名前教えろや！！

個法「昨日の阪神はもういいからさっさと雅布は巡回してきて、黒子は第7学区で起こった『学舎の園の生徒襲撃事件』の調査を」

雅布「それどう考えても犯人変態だよな…バカだろ…」

個法「雅布！！！」

雅布「へイへ～イ」

こいつの名は「風紀委員のうつけ者」熊谷雅布

そいつの詳細はまた何処で…

ＴＨＥ・オリ主（後書き）

次回は人物紹介です。

あと個法先輩の名前、ガチで知らないんで知ってる人教えてくれぃ

ＴＨＥ・登場人物紹介　熊谷雅布ａｎｄ桜井広（前書き）

二人だけだす

ＴＨＥ・登場人物紹介　熊谷雅布ａｎｄ桜井広

熊谷雅布（くまがいまさのぶ）…柵川中学に通う一年。一応この作品の主人公、レベル４で黒子と同じ能力と言う稀に見る同一能力の持ち主。上に二人兄がいるが、出すからそん時で。合気道、柔道など格闘術に長けていることから風紀委員からスカウトされ入ったのはいいがその結果「風紀委員の両さん」や「うつけ者」と呼ばれるハメに…
大の阪神ファンである。

桜井広（さくらいひろし）…雅布と同じく柵川中学一年。レベル２の電磁を扱う能力だったと彼は語る。雅布とコンビを組んでいる。実は風紀委員なのだが…雅布曰わく「風紀委員の鬼」

ＴＨＥ・登場人物紹介　熊谷雅布ａｎｄ桜井広（後書き）

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」に触れた所はありますが、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」は原作じゃないので、いい例えが見つからなかったので…

ＴＨＥ・熊谷雅布ａｎｄ御坂美琴（前書き）

二人が初めて出会います。

ＴＨＥ・熊谷雅布ａｎｄ御坂美琴

その日私、熊谷雅布は個法美偉先輩に頼まれ第１６０支部までいってよくわからない試験管をよくわからない施設によくわからない車で行った後、徒歩で自分の家（柵川中学校男子寮）に戻ろうとした。

雅布「何だったんだろうな？あの液体？」

私はあの試験管に入ってた液体が異様に気になっていたが、その後３分で忘れた。

私はあるコンビニに立ち寄った。

飲み物と漫画が買いたくなっただけである。

雅布「このコンビニ立ち読みが出来るんか」

私はここのコンビニが立ち読みできると知ってたいそう驚いた。

雅布「で、何でこんなしわくちゃになってんだ？」

私はコンビニの漫画が全部独特な形でしわくちゃになっている。

明らかに同一犯の仕業だ…

まぁどうせ近くのチンピラか小学生かなと言う気持ちで私は唯一しわくちゃになっていない「週刊ベースボール」を眺めた。

学園都市でも週刊ベースボールは売っている。

今週は【捕手の哲学】という記事だ。
ヤクルトの相川、阪神の城島、千葉ロッテの里崎と各チームの捕手の記事がワンサカと掲載されている。
私が週べに没頭してると…
「あ、新しくなってる」
ある女子の声がした。
雅布は週べを読みながら横目でその女子を見た。
その女子は黒子と同じ制服を来ていた。
雅布（あれって確か白井と同じ制服だよな…じゃ同じ学校か…あれ？白井って『学舎の園』の生徒じゃなかったけ？なんでそんなリッチマンがこんな場所にいるんだ？）
雅布はそう考えているとその女子は立ち読みし始めた。
雅布（こんな女子も立ち読みするんだな）
そんな事考えてると雅布はあることに気がついた！
雅布（コイツ…本の隅っこを手でこすりつけてる！）
雅布はこんな高貴な女子も立ち読みをしてしわくちゃにして店員に嫌がらせするんだなぁ～と感じたとか

店員（立ち読みはやめてくれぃ（泣））

〜御坂視点〜

私がコンビニに新刊見にきたらちょうど私と同じくらいの人が立ち読みしていた。

「風紀委員」の紋章をしてたから風紀委員なんだ

しかも胸バッチに「第１７７愚連隊」って書いてある…黒子と同じ支部なのかな？

雰囲気が近寄りたがくちょっと間を空けて立ち読みしていた。

するとその愚連隊の人が私の事をチラチラ見てる。

恐らく「常盤台のお嬢様だ」とか変な事考えてるんでしょ…

そんなのお見通しよ

〜雅布視点〜

アレどこの制服だっけ？「長点上機学園」だっけ？

あそこは黒か…

「桜ヶ丘高校」だっけ？

あれは別の作品だ…

「常盤平中学校」だっけ？

それは和田コーチの出身中学だ…

そうだ！「常盤台中学」だ！

御坂の「常盤台のお嬢様」より程遠い雅布の思考だった。

ＴＨＥ・熊谷雅布ａｎｄ御坂美琴（後書き）

恋愛？なったら凄いね（笑）

こちら風紀委員第１７７愚連隊隊長の熊谷雅布です（前書き）

「ＴＨＥ」が付かなくなりました。

こちら風紀委員第１７７愚連隊隊長の熊谷雅布です

立ち読み女の子御坂は新刊の立ち読みが終わった後、何も買わずにコンビニを後にした。

風紀委員第１７７愚連隊の雅布は週刊ベースボールとサイダーを購入し、コンビニを後にした。

その後白井黒子宛にメールで

「常盤台に立ち読み女の子っている？」

・　・　・

雅布はある路地裏に入った。

そこにはさっき会った「立ち読み女の子」がいた。

その「立ち読み女の子」の周りにピアスや五輪刈り等をした不良共がいた。

雅布（なんだい？「立ち読み女の子」は立ち読みだけじゃなく軍団でも作ってんのかい？本当にコイツ常盤台か？）

そう雅布は考えてるいたが…

不良達の身ぶり手ぶり等で「絡まれんじゃねぇの？」と彼は予測した。

なんか「立ち読み女の子」の戦闘力は強そうであんなチンピラなんかひと捻りかな？と考えたが。

雅布（ここは風紀委員の仕事をやろう）

そう言って雅布は不良達に近づいていった。

雅布「え～、風紀委員の者です。オマイラ何やってんだ？」

不良？「んだテメェは？」

不良？「風紀委員かぁ？」

雅布「風紀委員だけど？そこでさぁ～カツアゲとかされちゃ困るんだよ？やるなら違う場所でやって？せめてトイレでやって」

御坂（え？助けないの？）

不良？「ウザいんだよ風紀委員は！！！」

雅布「人の話聞けやバカかお前は！？」

不良？「死ねぇゴラァ！」

不良？は雅布に殴りかかった！

雅布は軽く避けると相手の腹にカウンターを喰らわした。

不良？「グフゥ…」

不良？は倒れ込んだ。

不良？「この野郎！」

不良？がナイフを取り出して雅布に切りかかる！

御坂（危ない！）

不良？「グハァ！！」

御坂「え？」

雅布は不良？が繰り出したナイフを持ってる左手を掴んで手首を捻りナイフをもぎ取ると足を引っ掛け、転倒させた。

雅布「ったく大人しく事情聴取に応答すればいいものを…結果、お前らは『公務執行妨害』をやり、お縄に捕まる…バカじゃねぇの？」

そう言いつつ雅布は不良達に手錠をかけてゆく

不良？「畜生！なんで風紀委員が来たんだよ！風紀委員は学校だけだろ！活動が！」

雅布「こういうとこで検挙率をあげていると学歴に良い印象を与えるんだよ、それに俺は白井黒子見たいに無闇やたらに能力など使わん、能力なんて使ったら業務に響くからな～、こういう『公務執行妨害による正当防衛』なら良いんだよ～、管轄外だが…」

不良？「お前本当に風紀委員なのか？この前あった風紀委員は『そう言う事していいんですか？』とかいう超超クソ真面目な奴だったが」

雅布「いやいや、俺はそう言う奴じゃないから」

不良？「そう言われると風紀委員も悪くは無さそうだな」

雅布「最初の頃は研修とかで格闘技覚えさせられるから喧嘩にも強くなれるよ」

不良？「考えとく」

雅布「いいけどさ、とりあえず一緒に風紀委員に行こうか、逮捕しちゃったんだから聴取とらねぇんといけないんだわ」

御坂「それって私も来なきゃいけない？」

雅布「勿論」

こうして雅布は風紀委員第１７７支部に行ったとさ

（白井と初春は仕事の関係で雅布、御坂と会わず）

こちら風紀委員第１７７愚連隊隊長の熊谷雅布です（後書き）

次は「白球夢見て」の方をちょっと書くんで

そちらもよろしくお願いします。

レストラン（前書き）

桜井広、久々の登場

レストラン

その日雅布は桜井広とあるレストランにいた。

桜井はアイスティーを注文して本を読みながらゆっくり飲んでいたが雅布はドリンクバーの烏龍茶を飲み干した後、机に突っ伏して寝ていた。

桜井（……ん？）

するとあることに気がついた桜井は持ってた本で雅布をたたき起こした。

雅布「いった！なにすんねん！」

桜井「あれ黒子じゃね？」

そう言って桜井が指差す方を雅布が見ると、確かに窓側の方に白井黒子と前話で出た「立ち読み女の子」がいた。

雅布「やっぱり白井と知り合いか…どうりで先日やたらソワソワしてると思った…」

桜井「黒子と一緒にいる奴知ってるのか？」

雅布「あぁ、『常盤台の超電磁砲』でお馴染みの御坂美琴様よ、先日不良に襲われている所を俺が救出、調書を取ってる時に『常盤台の超電磁砲』って分かった訳よ」

桜井「じゃ黒子の先輩か」

雅布「しかし白井の奴なにやってんだ？アイツ今日仕事のはずだぞ？」

桜井「俺達もじゃね？」

雅布「俺達はいいの、今日は『パトロールを自主的にやれ』との支持だ」

桜井「最近俺達の仕事おかしくないか？今日のソレといい、先日の謎の液体を運ぶとか」

雅布「あれ俺だけじゃなくて白井も初春もやらされたらしいじゃん？何なんだアレ？」

桜井「俺はその液体を見てないから知らん」

雅布（確かに気になるな…）

白井「オネェェサマァァア！！」

雅布・桜井「！！？」

※知ってる人は知ってると思うが、白井黒子はいきなり御坂美琴に抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『ＭＷ』って言う漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確か映画化した奴だよね？」

雅布「まぁ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリアスな物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語っていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランを出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

雅布「あれ初春やん、え～と隣にいるのが…」

桜井「佐藤」

雅布「そうそう佐藤、佐藤」

雅布（確かに気になるな…）

白井「オネェェサマァァァ！！」

雅布・桜井「！！？」

※知ってる人は知ってると思うが、白井黒子はいきなり御坂美琴に抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『ＭＷ』って言う漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確か映画化した奴だよね？」

雅布「まぁ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリアスな物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語っていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランから出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

気にせずその場を通り過ぎようとしたら

【ゴン！！】

雅布「？」

何かに当たった衝撃を感じたので下を見ると

白井黒子の頭を蹴っていた。

雅布「何そこで呑気に寝てんねん、蹴られたいのか？」

そう言って雅布は執拗に白井黒子を蹴る。

初春「なんで雅布さんがいるんですか？」

雅布「何だよそれ、いたら邪魔見たいな言い方は？」

レストラン（後書き）

感想お待ちしております！

銀行強盗

とりあえず話に割り込んだんで雅布と桜井は御坂に自己紹介した。

雅布「柵川中学に通う初春と佐藤の同級生の熊谷雅布です。」

桜井「同じく同級生の桜井広」

御坂「私は御坂美琴…ってアナタは知ってるのよね…」

そう言って御坂は雅布に目を向けた

白井「え…お姉様どこでこんな野蛮人と…」

雅布「先日コイツが不良達に囲まれていてさ～、まぁ色々あって止めたわけだ。んで被害者のコイツの調書を取っただけだ」

白井「そうですの」

初春「だけど雅布さん目上の人に『コイツ』は無いと思いますよ」

雅布「え？」

白井「そうですの雅布、お姉様は中学2年ですのよ」

雅布「そうなの！？」

3人の身長の比

御坂＜雅布＜桜井

御坂「え？あなた中1だったの？」

雅布「じゃあ何歳だと思っていたんだ？」

御坂「高校生くらい？」

雅布「ケッ…」

雅布はそう吐き捨てると

雅布「さて俺らは警邏に行きますかぁ」

桜井とどっか行ってしまった。

御坂「何なのアイツは？」

白井「申し訳ございませんお姉様、彼は図体と見かけは野蛮人ですが性格は良い方なのです」

初春「白井さんの言うとおり雅布さんは良い人ですよ」

佐天「私の事を佐藤とか言ったけど…」

初春「知らなかっただけだと思います」

雅布と桜井はある広場に着いた。

雅布「あ〜、ダリィ」

桜井「アイスでも食おうぜ」

雅布「そうだな」

そう言って雅布と桜井は色々な所で暇つぶしをした。

そうこうしてると

【ズガーン！！】

いきなり爆発音が聞こえた。

雅布・桜井「？」

雅布と桜井が爆発音のする方を見ると

近くの銀行から煙が出ていた。

雅布「銀行強盗かな？」

そう言うと銀行の中から

？「よっしゃ引き上げるぞ！」

？、？「ヘイ！」

雅布はテレポートを使い犯人達の所へ行った。

雅布「風紀委員だ！ぶっ飛ばす！」

桜井「罪状言えや！」

？「嘘！なぜ……ハハハ！オイ見ろよwまだガキだZ…グボハァ！」

いきなり？は雅布に殴られて倒れた。

？「こんのガキャ！」

？が巨体を揺らして突撃！

ハイ！ヒラリとかわして引っ掛けた。

？「グワァ！」

そしてその先には…

？「ウワァァァァァァァァ！！！！！！」

？「Ｎｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏｏ！！！！！！！！！！」

【ズーン！！】

？と？はくたばった。

さぁ、残りは？だけだ！

？「ち…畜生！」

？は逃走を試みたが

【シュン！】

雅布「つーかまーえた！」

？「ギャアアアア！」

・・・・・

桜井「やっぱりあれだよな、お前の捕まえ方は危ないよ」

雅布「そう？」

銀行強盗（後書き）

白井「私達の出番が取られたのですの」

御坂「そうね…」

登場人物紹介その？～御坂、白井、初春、佐天、個法編～（前書き）

超簡単に

登場人物紹介その？～御坂、白井、初春、佐天、個法編～

御坂美琴…「超電磁砲」をぶっ放すお嬢様として広くその名が知られている。原作だったら前話で超電磁砲をぶっ放す予定だったが雅布により出番無しに追い込まれた。

上条×御坂は筆者は考えてないとの事。

白井黒子…レズ。いつも御坂に取り付いているため風紀委員の間じゃ「百合の黒子」とか呼ばれる。コイツも雅布により出番無しに追い込まれる。

初春飾利…只でさえ「阪神ファンのタイガース日記」の出番が無くなっているのにこっちじゃ白井黒子以上に出してない気がする。

佐天涙子…雅布に「佐藤」と呼ばれる。存在感出してるように見えるが雅布には認識されてない。

まだ２つぐらいしか台詞が無い。

個法美偉…筆者が「名前を覚えてなかった」人。

登場人物紹介その？～御坂、白井、初春、佐天、個法編～（後書き）

頻繁にやります。

液体の正体

銀行強盗事件が終わった日の夜

【カタカタカタカタカタカタカタカタカタカタカタカ】

雅布は自室でパソコンのワードを打っていた。

雅布「これで…よしと、後はこのビンを詰めて…」

雅布は自室の窓を開け

雅布「頼んだぞ」

ハト「クルックー」

一匹のハトを飛ばした。

〜東京・防衛省〜

自衛隊等、日本の防衛を担当する省の地下に秘密結社じゃないがある組織が存在する。

基本的に一般人は知らなく、防衛省に通う人でも知らない人がいる。

その名を「防衛省情報局」通称「ＭＤＩＳ」と呼んだ。

局長「…しかしよく学園都市からこんな情報を持ってこれたな…」

雅之「幾ら学園都市でもまさか伝書鳩を飛ばしているとは考えるとは思わなかったと思います」

彼の名は「熊谷雅之」

熊谷雅布の実兄である。

彼の表向きの顔は「陸上自衛隊の三佐」だがその正体は「防衛省情報局の工作員」である。

普段はデスクワークだが実際現地にいくこともある。

局長「しかし…これが『アレ』だったら大変な事になるぞ…」

雅之「はい」

局長の机の上には以前、雅布が風紀委員の仕事で配送した「謎の液体」が置かれている。

雅之「調べた所、『ＧＵＳＨＯ』に間違いないとの事です」

局長「そうか…」

局長室に沈黙が流れる。

局長「それじゃ熊谷三佐は引き続き学園都市の調査にあたれ、ＧＵＳＨＯについてはこちらで配慮する」

雅之「了解」

・・・・・・

雅布「何だと…」

雅布は返信の伝書鳩が持ってきた手紙を読んで愕然とした。

「液体の正体はＧＵＳＨＯ」

この一言で充分だった。

雅布はこの手紙を見た後すぐライターで燃やし、灰にした。

調査依頼（前書き）

あのグループが初登場です。

調査依頼

雅布は液体の正体がＧＵＳＨＯだと知るとある場所に向かった。

そこは平凡なレストラン。

そこに入ると４人の女子がいた。

一人は目がつり上がり鮭弁食ってる

一人は映画雑誌を眺めてる。

一人はパフェを頬張っている金髪外人

一人は目を開けながら寝てる電波少女

暗部組織「アイテム」のメンバーだ。

鮭弁を頬張る隊長の麦野

Ｂ級映画が大好きな絹旗

一番弱そうだけど一番重要な滝壺

それと部下一名

フレンダ「忘れてる！忘れてる！自己紹介させて！」

なんか五月蝿い蝿がいるので作者権限で抹殺

フレンダ「ギャァァア！！」

……すると話しが続かないので

フレンダ「ホッ」

麦野「雅布か、何のようだ？」

雅布「依頼を頼みに来た」

絹旗「ぶっちゃけ雅布が持ってくる依頼は超不気味で嫌なんですよ」

滝壺「大丈夫、私はそんな雅布を応援する…」

雅布「いやいや、今回は簡単ですよ、何だって『ある研究所に行ってある資料を盗んでくる』だから」

麦野「なんで私らがそんなこそ泥見たいな事やらないといけないんだ！！！！！」

麦野はそう言うと机を思い切り叩いた。

雅布「誰がこそ泥やれといった。方法は問わない、とりあえず俺は資料が欲しいだけだ」

絹旗「その資料はどんな資料なんですか？」

雅布「ＧＵＳＨＯっていう液体がある。それについての資料だ」

麦野「報酬は？」

麦野がそう言うと雅布は不敵な笑みを浮かべた。

調査依頼（後書き）

時期はアニメでいう「常盤台襲撃事件」の前後

アイテムのお仕事（前書き）

雅布は不敵な笑みを浮かべた。

雅布「鮭弁と鯖缶、映画雑誌でいい？」

アイテムのお仕事

～その日の夜～

麦野以下４人はある研究所にいた。

麦野「ここか…」

絹旗「超警備員がいますね」

※「アンチスキル」じゃなく「けいびいん」

フレンダ「ぶっちゃけ、こそ泥見たいな事をやるような連中じゃないのよ」

麦野「そう言うこと言わないのよ、さて…」

麦野はそう言うと

麦野「じゃあ作戦実行よ♪」

そう言った瞬間、研究所のどこかで爆発音が聞こえた。

警備員？「なんだ！」

警備員？「敵襲か？」

警備員の慌てる声が聞こえる。

麦野「行くよ！」

４人は警備員の目を盗んで研究所の中に侵入した。

絹旗「しかし本当に超こそ泥ですね私達、しかも任務内容の中に『敵に正体がバレないように』なんて、だったら超テメェがやれって話しです」

麦野「愚痴言わないのよ絹旗、その分報酬があるのだから」

絹旗「まぁそうですけど…」

麦野（しかし確かに絹旗の言うとおり雅布自身がやれば成功率が高いのに…こんな地図まであるんだから）

麦野はそう考えていた瞬間！

警備員「ん？」

アイテム「！！！」

警備員「誰だ！？」

【ドス！】

警備員「キュウ…」

麦野「流石ね絹旗」

絹旗「超お茶の子さいさいです」

絹旗の蹴手繰りで警備員を倒した。

アイテムの面子はその後、監視室を襲撃し、研究所の監視システムは制覇した。

麦野「え～と、確かこの液体の部屋は…」

絹旗「ここだと思います」

麦野と滝壺が監視室に残り他の2人が麦野の指示の元、「液体」を探している。

麦野「今ロックを解除した」

絹旗「了解」

絹旗はポケットから拳銃を取り出すと、ゆっくり部屋に入っていった。

麦野「絹旗、右斜め前方に人がいる」

絹旗「了解」

監視カメラをいじりながら麦野が敵を探してそれを絹旗が処理する。

その時に絹旗は研究員に液体の所在を聞く。

そんなこんなで時間がたった時

【ズガーン！】

突然、爆発音が聞こえた。

麦野「絹旗！どうした！？」

絹旗「分かりません！フレンダがいるほうから超聞こえました！」

麦野「フレンダ！？」

すると無線でフレンダから連絡が入る。

フレンダ「ヤバいよ！武装集団が突入してくる！」

麦野「武装集団？」

フレンダの無線の向こうからは激しい銃の音が聞こえた。

フレンダ「とりあえず、今の場所からは逃げてる！麦野！逃げ場所ある！？」

麦野「ちょっと待て！！」

麦野は急いで地図を見てフレンダの位置を確認する。

同時にフレンダの追っ手を突き放すためにフレンダが通った後ろに防火シャッターを閉める。

フレンダ「ありがとう麦野！」

麦野「フレンダ！このまま下に降りて行けば絹旗と合流できるから合流しろ！」

フレンダ「了解」

絹旗「分かりました」

・・・・・・・

絹旗「結局この液体は超何なんですかね？」

フレンダ「私達は知らなくていいことよ」

麦野「そういうこと」

アイテムはちゃんと「液体」の資料を強奪し、武装集団を退けて任務完了した。

アイテムのお仕事（後書き）

「けいおん！～白球夢見て～」を次回は書きます。

新キャラ登場（前書き）

すんげ～短いです！

新キャラ登場

「アイテム」が研究所を襲撃してからの朝

麦野は第１０学区のある路地にいた。

そこで麦野はある一人の男を待っていた。

その男がやってきた。

麦野「遅刻だ」

菊池「ワリィワリィ」

男の名は菊池勇（きくちいさみ）

あるスキルアウトのリーダーである。

麦野は研究所から盗んだ書類を菊池に渡した。

菊池「これが『例の書類』ですかぁ～、分かりました。ちゃんと雅布に届けておくんで！」

そう言うと菊池は去っていった。

麦野「はぁ…」

麦野は溜め息をついた。

新キャラ登場（後書き）

次回から「レベルアッパー編」に移ります。

けどこの話しは終わってないんで

レベルアップパァァァァァ！！！！！！！！！その？

～風紀委員第１７７支部～

雅布は呑気に漫画を読んでいた。

雅布（あ～ヒマだなぁ…）

ちなみに白井達は仕事に出てる。

雅布は大人しくお留守番って訳。

雅布（ＧＵＳＨＯの件についてはＭＤＩＳで調査中、結果が分かり次第動けとの事…）

今だから紹介するが雅布は雅之の命令でＭＤＩＳの諜報員もやっている。

雅布（雅昭兄さんからも連絡来ないから凄いヒマ）

雅昭兄さんとはいつか出る。

つーか登場人物紹介を見直すから詳細はそこで

そんな平和な時間を過ごしているときだった。

【ＰＰＰＰＰ】

雅布の携帯が鳴った。

雅布「へい」

白井「雅布ですの？緊急事態発生のため至急来てくださいですの！！」ピッ

【ツゥー、ツゥー】

雅布「……どこに？」

その後、初春からの連絡で雅布はある場所にいった。

雅布「こりゃすげーなおい！」

桜井「興奮して言うことじゃないと思うよ…」

雅布はあるお店にいた。

先ほどここで爆発騒ぎがあり、風紀委員一人が怪我をするという事態に…

雅布「で？なんで俺たちが？」

初春「１７７支部の仲間ですよ！やられたのは！」

桜井「へぇ～」

雅布「なに？白井がやられた？あ～あ～、香典買いに行かないと…」

白井「死んでませんですの！」

雅布「なんだ…」チッ

桜井・初春（今舌打ちしたよな…）

個法「あっ、雅布に桜井来た」

雅布「来ました」

個法「橋本は病院で治療を受けているけど命には別状は無いって」

雅布「橋本って誰？」

桜井「怪我した風紀委員」

雅布「あ～、誰？」

桜井「知らないんかい…」

・

・

・

・

白井「というのが昨日の夕方に起こった事件ですの」

白井は御坂は公園の自販機にいた。

白井「聞いてます？お姉様」

御坂「聞いてるわよ、連続爆破事件とかいうやつでしょ」

白井「正確には連続虚空爆破事件ですの」

そう言って白井は御坂が買った（正確には蹴手繰りで購入）した缶を指差し

白井「アルミを基点にして、重力子の数ではなく速度を急激に増加させてそれを一気に周囲に撒き散らす、ようは『アルミを爆弾に変える』能力ですの。ぬいぐるみの中にスプーンを隠して破裂させたり、ゴミ箱のアルミ缶を爆破するといった手を使ってきますの、爆発の前に前兆があるので死亡者こそ出ていませんが、まだ犯人の特定ができてませんの」

御坂「だったら能力者の犯行なんでしょ？」

白井と御坂「連続爆破事件」について語っている時、雅布は…

雅布「レベルアッパー？」

菊池「あぁ、能力者のレベルを上げる道具だ」

菊池からレベルアッパーの事を聞いていた。

レベルアップパァァァァァ！！！！！！！！！その？（前書き）

原作キャラ未登場

レベルアップパァァァァァ！！！！！！！！！その？

菊池「今はまだ都市伝説程度だが俺はもう少ししたら爆発的に流行ると思う。だから今の内にレベルアップパーのあるサイトから大量にダウンロードしとくんだよ（笑）」

雅布「そんな代物売れるのか？」

菊池「大丈夫！実証済みだ！既に１０人にやらしてある」

雅布「……結果は？」

菊池「全員にレベル１～２の変化が表れた。」

雅布「なる程」

菊池「でもこんな代物、いつ風紀委員に取り上げられるか分からん」

雅布「アイツら頭固いからな」

菊池「そん時にこれを１０００円で売れば…」

雅布「…凄い金になるな」

ここは菊池の寮だがとんでもない量のダンボールがある。

雅布「いちよう聞くがこのダンボールの中にあるｉＰｏｄはどこで入手した？」

菊池「『外』の奴からスキルアウトを通じて届けてもらった！ちなみに全部中国製！ｉＰｄｄ！」

雅布「それどうやって発音するの？」

菊池「しかし裏の顔を持っている同士、何を考えているのか分からんな！！」

雅布「へっ、お前みたいなちっぽけな権力とは違うぜ！！」

菊池「じゃ何だ？ＣＩＡか？」

雅布「……近いな」

菊池「え？」

雅布「あ、俺はこれで帰るから」

菊池「あぁ、またな」

雅布「おう！」

雅布は菊池の部屋を後にした。

雅布「さて…」

雅布は菊池が「一個どうよ？」と言われて貰ったレベルアッパーを見た。

雅布はそれをある場所に持って行った。

・・・・・・

雅布はある教会にいた。

と行っても十字教なんかじゃない

ちゃんとしたキリスト教の教会だ。

雅布「……やっと来たか」

雅昭「悪い悪い、不良に絡まれてさぁ」

雅布「まさか使った訳じゃねぇだろうな？」

雅昭「延髄切りですんだ」

雅布「ならよかった」

しばらくして

雅之「お待たせ」

雅昭「兄さん」

雅布「久しぶり」

雅之「本当に久しぶりだな、例の物は持ってきたか？」

雅昭「あぁ、これだろ？」

雅昭はそう言うと鞄を開けてあるものを出した。

雅布「兄さん、それ何？」

雅昭「学園都市の裏情報がぎっしり詰まったＵＳＢ」

雅之「これがあれば学園都市の秘密がわかる」

雅布「それで何する気？」

雅之「喧嘩や、いつか学園都市と喧嘩するんや」

雅布「それって戦争？」

雅之「に近いな」

雅布「マジかぁ…」

雅之「そん時はお前ら学園都市にあるものを全て捨てて学園都市から逃げろ」

雅布、雅昭「了解」

え？なんで外部の人間が学園都市に来てるかって？

雅之はこの時期に行われている自衛隊と警備員の合同演習のため、学園都市に来てます。

レベルアップパァァァァァ！！！！！！！！！その？（後書き）

～その日の夜～

雅布「なんで停電した？」

レベルアップパァァァァァ！！！！！！！！！その？

熊谷兄弟が教会の密会を終えた日、別の所

雅布「アレ？御坂さんに桜井に佐藤に初春？おまいら何してるんや？特に桜井、ハーレム気分になってんじゃない！」

桜井「別にそんな気分じゃないが…」

佐天「だから佐藤じゃない…佐天だよ」

御坂「あぁ、熊谷くんこれから私たちショッピングに行くんだけど、今暇？」

雅布「ヒマですよ」

御坂「じゃあ行こう」

雅布「へェ～イ」

雅布は御坂達と「セブンイレブン」もとい「セブンスミスト」に向かった。

佐天「でも『超能力者』かあ～、スッゴィなあ」

雅布「レベル5？すごいよねぇ～アイツら、『1人で軍隊を壊滅』とか言うけど米軍とコンゴ軍では規模が違いすぎるんだよな」

桜井「まぁ確かに…」

佐天「御坂さん『レベル5』なんですよ！！」

雅布「知ってる、調書を取った時に分かった『常盤台のおてんばお姉さん』てな」

御坂「ど…どこで」

雅布「あんな事件が起こったらそう思うわい、『立ち読みコンビニお姉さん』」

御坂「……」

佐天「あ～、『幻想御手』があったらなぁ～」

初春「え？何ですかそれ？」

佐天「いや、あくまで噂だし、詳しい事はあたしも知らないんだけど…、あたし達の能力の強さを簡単に引き上げる道具があるんだって、それが『幻想御手』」

雅布（あぁ、あるし）

雅布はポケットの中にある菊池から貰った「幻想御手」を触った。

佐天「ま、ネット上の都市伝説みたいなもんだけどさ」

初春「そりゃそうですよ、そんなのがあったら苦労しません」

佐天「でもさ、本当にあるならあたしでも…」

初春「？佐天さん？」

佐天「アハハ…なんでもないよ～」

雅布（既に噂が広まってる、菊池の言った事は案外早く来るかもな）

雅布は呑気にそんな事を考えていた。

御坂達が「セブンスミスト」に入る時、雅布はある人の視線を感じた。

見ると明らかに怪しい男がこっちをみていた。

どうやら初春と桜井を見ているようだった。

彼らは腕章を付けているから一発で風紀委員だとわかる。

（雅布は付けてない）

その風紀委員を見る目は完全に増悪の視線だった。

雅布（お巡りさ～ん、ここに変な人がいま～す）

・

・

・

佐天「へぇ～『超電磁砲』ってゲームセンターのコインを飛ばしてるんですかぁ～」

御坂「そうよ、まあ５０メートルも飛んだら溶けちゃうんだけどね」

雅布「今度から寛永通宝でやれよ、そうすれば『学園都市版女銭形平次』の出来上がりだ」

御坂「なにその注文…」

佐天「でも必殺技があるとカッコイイですよね～」

御坂「必殺技って…」

佐天「あたしもインパクトのある能力欲しいなぁ～、お！」

佐天は店の商品であるヒモパンを持つと

佐天「初春、こんなのどうじゃ？」

初春「はい！？無理無理無理です！そんなの穿ける訳ないじゃないですか！」

佐天「これならあたしにスカートめくられても、堂々と周りに見せつけられるんじゃない？」

初春「見せないし、めくらないで下さいッ！！」

雅布「俺らどう見られてるの？こいつらいなかったら完全に俺達変態だよ」

桜井「荷物運びとしか思われてないんじゃね？」

雅布「なるほど…」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4207x/

とある科学の超電磁砲？

2011年11月1日03時15分発行